皆様こんにちは、日本維新の会の長崎くみでございます。第 21 回定例会におきまして一般質問の機会を与えて頂きましたことに感謝申し上げます。

皆様方おかれましてはしばらくの間ご静聴賜ります様、お願い申し上げます。

まず初めに、公立小中高等学校の学校図書館についてお伺いいたします。

政府は、公立学校の図書館に置く新聞の充実に向け、2020年度からの第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」を定め1校あたり小学校2紙、中学校3紙、高校は5紙を目安に配備の目標を掲げています。

積極的に学校図書館で複数の新聞が読める環境を整えようとしていますが、本市の状況については、昨年度、全小学校　41　校の平均新聞購入数は　1.2　紙で、一番多く購入しているのは１つの小学校で４紙、最も少ないのは、1 紙です。

中学校では全中学校　18 校の平均新聞購入数は 1.2 紙で、最も多く購入しているのは３つの中学校で　2　紙、最も少ないのは１紙となっています。

公立高校3校については、平均３紙です。新聞購読や種類に差がある理由は、学校の判断で購読を行うためです。本市では少ない学校では 1 紙にとどまり、公立小中高、全般的に政府が掲げる目標より下回っています。教育内容を定める学習指導要領では新聞を教材に活用することが位置付けられています。加えて、 選挙権年齢や成年年齢の引き下げに伴い、児童生徒が主体的に主権者として必要な資質・能力を身につける上で、発達段階に応じて複数紙配備を重要視しています。

①そこでお伺いいたします。本市公立学校の新聞配備の進捗及び教育委員会として進捗状況をどの様に管理されてきたのかお聞かせください。

次に若年層の献血推進についてお伺いいたします。

昨年 12 月に一般質問で東浦議員が取り上げておられます。私も問題意識がありますので質問させて頂きます。

献血は病気の治療や手術で輸血などを必要とする患者のために健康な人が無償で血液を提供することです。

献血の種類として、血液中の全成分を献血する全血献血。200mlと400mlがあります。

全血から必要な成分のみを採血し、（体内で回復に時間がかかる）赤血球は再び体内に戻す成分献血があります。献血可能なのは16歳から69歳で65歳以上の方は条件があります。日本赤十字社によると2022年度の総献血者は501 万人で 10 年以上前から総数は 500 万人前後とほぼ同じ程度で推移しているものの若年層においては、10代が22万人、20 代が 70 万人、30 代が 75 万人で合わせると 167 万人となります。2012 年度 251 万人でしたから、この 10 年間で約 33％減となり若年層の献血離れが続いています。

若い献血者が減っている要因には少子化の影響もありますが、若年層の献血率自

体も低調傾向にあります。今後、少子高齢化で血液の需要が増しますが、もしこの傾向が変わらなければ、将来的に輸血用血液の供給が不安定になることが懸念されます。献血で沢山の命が救われています。一人でも多くの人に協力をしてもらいたいです。

そこで、お伺いします。

①本市として若年層献血の現状と課題についての認識をお聞かせください。

第１問目の最後に新図書館の整備等に合わせた街づくりの推進事業についてお伺いいたします。

この事業の概要は大井戸公園での北図書館と女性・勤労婦人センターの貸館機能を複合化した施設、以下、新図書館と言います、の整備や同公園のリニューアル、子育て世帯にやさしい周辺歩道の形成と、新たな男女共同参画社会づくり等の拠点の整備などを一体的に進めるものです。今後の日程として、今年5月末に官民連携アドバイザリー業務を担うコンサルティング事業者が選定されました。８ 月にはタウンミーティング等による市民との意見交換や事業者へのサウンディング調査を同時並行で進めていき、令和 ７ 年度に基本計画の策定、令和 ８ 年度事業者を決定し、令和 11 年度から新図書館としてスタートする予定です。尼崎北図書館は昭和54年に建築され、現在約 45 年経過している建物です。

役目を終える令和 11 年には築 50 年になります。令和 11 年には新施設としてスタートしますが、多様な市民が利用することで本市の目玉の拠点になるよう期待しています。

①そこでお伺い致します。今回整備される新図書館においては 65 年間という長期間運営する予定ですが本市図書館の存在意義や存在価値をどの様に高めていくのかお聞かせ下さい。

これで、第1問目を終わります。2 問目からは　一問一答形式で行わせて頂きます。

答弁

（1問1答）

学校図書館の新聞配置についてお伺い致します。

新聞のある環境作りは大切です。しかし、ただ置いてあるだけでは十分とは言えず子供たちは、なかなか手にとって読んでくれないと思いますが、授業での活用や学校司書などを活用されている事例もあると思います。お伺いします。

②新聞があることは子どもたちにとってどのような影響があるのでしょうか。子供たちにとって豊かな学びとなっている取組事例とその効果についてお聞かせください。

答弁

政府は2022年度から自治体に対し学校を図書館への新聞配備費として全国に計38億円を地方交付税で財政措置しています。交付金の実際の使途は一般財源で自治体に委ねられていますが自治体よっては配備が進んでいないと言う指摘があります。

③本市の場合、措置された交付税に対しどの様に拡充したのか「新聞配備」に関して具体的な金額をお聞かせください。

答弁

現在、新聞購読は各学校で行われ契約も支払いも学校がしています。学校は教育委員会に支出の審査を依頼し、教育委員会から予算の配分を受けます。また、

④学校ごとに契約する場合、各校、1 紙当たり3カ月に 1 本、年間 4 本の伝票作成が必要で複数紙の購読は事務が煩雑で多忙な学校現場の負担が大きく購読が進まないと言う指摘があります。この学校側の事務負担について見解をお聞かせください。

答弁

私は、学校側に負担を掛けないためにも教育委員会が各新聞社と直接契約する一括契約を導入すればいいと考えます。そうすれば、各校の購読も進むと思います。公立小中高等学校の希望する新聞を取りまとめ教育委員会が販売店と契約すれば、学校側の伝票作成は不要で教育委員会が行う伝票の審査も軽減され学校と教育委員会の双方にメリットがあります。他都市では東京都葛飾区でも一括契約の事例があります。

⑤そこでお伺いいたします。本市における一括契約の導入についての見解をお聞かせください

答弁

（1問1答）

若年層の献血の低下には献血バスが高校に出向く学内献血の減少も背景にあるのではないでしょうか？文科省の資料によると平成6年では30年前になりますが全国高校での献血の実施率は約6割ととても盛んに行われていました。現在では2割から3割程度まで落ち込んでいます。この高校献血の減少によって、学生たちは献血に触れ合う機会自体が減っています。

②お伺いいたします、本市の市立高等学校3校における直近での実施状況はいかがでしょうか。

答弁

平成23年厚生労働省が作成した資料によると高校での集団献血（学内献血）の体験がその後の献血への動機づけになるかという問いに非常に有効、どちらかといえば有効と合わせて約9割が動機づけになるという調査結果があります。

献血を受け入れている日赤では献血のきっかけづくりや、将来にわたって献血に協力を頂くための取組として学校からの要望があれば出向いて「献血セミナー」を実施されています。

③高校では文化祭でブースの出展や保健の授業で啓発が行われていますが、それとは別に「献血セミナー」も実施されてはと思いますが、いかがでしょうか。

答弁

政府では昨年の6月、経済財政運営の指針「骨太方針」に献血への理解を深めるとの文言を盛り込んでいますが、厚労省でも献血を理解するための高校生用テキスト（けんけつHOPSTEPJAMP）を昨年2月より全国の高等学校に配布しています。また、このテキストの活用について担当教諭の方対象にアンケートを実施しています。回答期限は本年5月20日までですが、質問はテキストをどのように活用しているか、送付時期について、更には理解を深めるためのアイデアや改善すべき点などです。

④このアンケートでその学校の取組んだ状況がわかります。ではその傾向はどのようなものか？この結果を受けて高校生の献血率の向上にどのように貢献していかれるのかお答えください。

答弁

本市ではホームページ等で促進し、若い世代にも　献血を呼び掛けています。

⑤市としてもなお一層、SNS（ライン・Facebook・インスタグラム）を活用して頂き、松本市長にも是非、　動画配信などで献血を呼び掛けて頂けたら効果が高まると思うのですが市長いかがでしょうか？

答弁

この新図書館は現時点で、女性・勤労婦人センター（トレピエ）の機能のうち、貸館

業務を図書館の建物で行いますが相談業務等については公園法に基づいて、公園に設置できる事業形態の制限があるため（整備されるエリア内で）現在地周辺の場所で行う予定との事です。女性・勤労センターは女性の悩み・就労相談などを中心とした相談業務を行っていますが

②それとは別に子育てを相談する機能も新たに整備される施設に設けて頂きたいのですが如何でしょうか？

答弁

新図書館のコンセプトに子ども・子育て世帯が集い学ぶ場所とあります。現在、市内で子育て支援の場所として、つどいの広場が 10 か所あります。つどいの広場は、乳幼児を持つ親とその子どもが気軽に集まり、交流を図ることを目的とした事業です。武庫地区には 2 カ所のつどいの広場がありますが、昨年度の利用人数はそれぞれ、5,964 人と 4,971 人です。ここには、子ども家庭庁が定める子育て支援員研修を終了した子育て支援員 2 名が常駐しており、保護者への育児相談や地域の情報提供など子育て支援に貢献して頂いています。

③将来的には新図書館の整備等にあわせて連携を図ることや現在の場所から移転することでなお一層、充実が図れると思います。お伺い致します。つどいの広場やその他子育て支援をされている方々と、どの様に連携を図られていくのかお聞かせ下

さい。

答弁

大阪府茨木市の市役所の隣に「おにクル」という複合施設が令和 5 年 11 月に開館しました。

ここは、ホールや図書館、子育て支援、市民活動センター、プラネタリウムなど、多くの機能が入った複合施設です。平成 27 年 12 月に元市民会館が閉館して以降、周辺を含めた「市民会館跡地エリア」の活用方法の検討を行い、エリアの活用にあたっては、行政だけでなく、市民の皆さんと一緒に考え、作り上げていくという「育てる広場」をキーコンセプトとしています。先日、ここに行ってきました、開館して 175 日目、来場者数は 90 万人を突破していました。7 階だての施設で図書館は 5 階と 6 階ですが、2 階の子ども支援センターがあるところは絵本ライブラリー、3 階の音楽スタジオがあるところはアートライブラリーとして芸術や音楽の本、CD やまんが、4 階の大ホールがあるところには雑誌などがありました。また、休日に訪れましたが、若い人がいっぱいで活気に溢れていて驚きました。図書館は子どもを静かにさせないと行けないという子育て世代の声があります。

「おにクル」の複合施設は見事にその声を解消させていました。

④お伺い致します。新設にあたり、「おにクル」と同じように建設するのは難しいかも

しれませんが、良いとこは取り入れることで新図書館が活性化の中核施設として本市の目玉の拠点になると思うのですが如何でしょうか？お答えください。